2026年10月15日

コスモスリポート10

No.348

編集／社会福祉法人 コスモス広報委員会　発行／社会福祉法人 コスモス

〒599-8116　堺市東区野尻町8-4　TEL 072-288-1055　FAX 072-287-1167
E-mail : honbu@sakaicosmos.net　http://www.sakaicosmos.net/

放課後等デイサービスのとりくみ

「夏休みを通して見えた子どもたちの成長」

子どもたちが楽しみにしている「夏休み」は、活動時間にゆとりがあるため、夏ならではの行事を行うことができます。

夏休みのある日、えるとの放課後等デイサービスを卒業した先輩たちが働く作業所へ、見学・体験に出かけました。実際に作業を体験し、みんなでランチを食べた後は、作業所の「なかまの会」の方から仕事の内容についてお話を聞きました。子どもたちからは、「お給料はたくさんありますか?」「お給料をもらったら何に使いますか?」といった質問もあり、働くことや将来について考える貴重な機会となりました。


昆虫に夢中！

行事も楽しみましたが、子どもたちが夢中になったのが〝昆虫〟です。名前をつけて、大切にお世話をする中で、「一回昆虫を捕ったら、死ぬまできちんとお世話したらなあかんねんで」と、生き物を飼う「責任」と「命の尊さ」について考え、話し合う子どもたちの姿がありました。たくさんの思い出をくれた昆虫たちとは、夏休みが終わる頃に「元気でね」と声をかけ、ふるさとである岸和田・とんぼ池公園へ返してあげました。

「今年の夏休みは、休まずにえるとに来ていっぱい遊んだ。学校が始まるの楽しみや」と、日々の生活の中でも、友だちと一緒に遊んだり、クッキングを楽しんだりしながら、笑顔あふれる交流を通して様々な体験を重ねました。一人ひとりが「できた!」を積み重ね、大きな成長を感じさせてくれた夏休み。この夏の思い出や経験を胸に、子どもたちの新しい毎日は、明日へと続いていきます。



「プールに花火、なつまつり…！　この夏の思い出をみんなでまとめました」

（地域福祉活動センターえると　放課後等デイサービス　高橋設子）



今月の紙面

1面……子どものコーナー／らくがき
2・3面…私たちを取り巻くIT環境
4・5面…コスモス冬の物品販売　一押し商品
6面……輝く！私が主人公／クッキングレシピ／基金のご報告
7面……支援のご報告／アルミ缶回収実績／コスモス創立30周年企画
8面……紙上作品展／行事案内

らくがき

私自身、幼い頃に麦の子保育園の1歳児クラス（うさぎぐみ）に1年間ですが通っていました。まさか大きくなってから、今度は保育士として麦の子保育園に戻ってくるとは思っていませんでした。現在は、保育士4年目となり、子どもたちと笑ったり一緒に成長したりしながら、毎日楽しく過ごしています。自分が通っていた園で、今は子どもたちの成長を見守る立場になれたことを嬉しく感じています。また、麦の子保育園の魅力といえば、なんといってもおいしい給食！子どもたちも私たち職員も、給食の時間を毎日楽しみにしています。

これからも、麦の子保育園で子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、笑顔いっぱいの毎日を子どもたちと一緒に過ごしていきたいです。

（麦の子保育園　中野愛菜）

私たちを取り巻くIT環境

―福祉の現場から考える―

法人本部　山田（やまだ）　浩之（ひろゆき）

はじめに――大きく変わる私たちの身のまわり

ここ数年、私たちが暮らす社会におけるIT（情報技術）環境は大きく変化しています。

スマートフォンを使った行政手続きや買い物、キャッシュレス決済などは、すでに日常的なものとなりました。職場でも、記録ソフトやオンライン会議、クラウドサービスなど、さまざまなITが使われるようになっています。

そして最近、急速に身近になっているのが「生成AI」です。

質問に答える、文章を要約する、情報を整理する、アイデアを提示するなど、その機能は急速に広がっています。これまで一部の専門家が扱うものだったAI（人工知能）が、私たちが日常的に利用できる道具になりつつあります。福祉・保育の仕事も、こうした社会の変化と無関係ではありません。しかし、新しい技術が登場したからといって、「便利だから使えばよい」「時代の流れだから導入しなければならない」と考えるだけでは十分ではないと思います。

私たち社会福祉法人コスモスは、「国民の権利としての社会福祉の進歩を築く」「社会福祉の公的責任と市民の共同性を追求する」「基本的人権の尊重と人類の恒久平和につとめる」「必要なすべての人に心の通った福祉を」という理念を掲げ、子ども・障害者・高齢者の3分野で実践を積み重ねてきました。

社会や技術が大きく変化している今だからこそ、この理念と日々の実践を出発点に、ITやAIとどう向き合うのか、を考えていくことが必要ではないでしょうか。

福祉の現場とIT

現在、福祉・保育の現場には多くの事務作業があります。日々の支援や保育の記録、連絡帳、個別支援計画、保育計画、報告書、勤務に関する事務、さまざまな集計や資料作成など、その内容は多岐にわたります。例えば、支援記録を書くことは、単に出来事を文字にして残す作業ではありません。その日の仲間や利用者の様子を振り返り、「なぜこのような様子だったのだろう」「自分たちの支援はどうだったのだろう」と考えることにもつながります。職員同士で記録を共有することによって、次の支援につながることもあります。

一方で、同じ内容を複数の書類に転記する、定型的な数字を何度も入力する、必要な情報を探すために多くの時間を費やすなど、仕組みを工夫することで軽減できる事務もあります。

大切なのは、「事務だから減らせばよい」と一括りにすることではなく、その仕事にはどのような意味があるのかを考えながら、必要な仕事を大切にし、不必要な負担を減らしていくことだと思います。ITは、そのために役立つ可能性を持った道具の一つです。

コスモスでもこれまで、現場の必要性に応じてさまざまなシステムやIT機器を導入してきました。うまく活用できれば、転記や集計などにかかっていた時間を減らし、必要な情報を共有しやすくできます。しかし、システムを導入すれば必ず仕事が楽になるわけではありません。新しい操作を覚えるために時間がかかったり、それまでの仕事の流れと合わず、かえって手間が増えたりすることもあります。「入力すること」が目的になってしまい、本来の仕事を圧迫してしまえば本末転倒です。だからこそ、導入すること自体を目的とせず、「この仕組みは現場の仕事に本当に役立っているのか」を確かめながら改善していくことが大切です。

生成AIと、どう向き合うか

生成AIについては、さらに慎重に考える必要があります。生成AIは、大量の情報を整理したり、文章の構成を考えたり、さまざまな視点やアイデアを得たりする際には、便利な道具となる可能性があります。一方で、AIが示す答えは常に正しいわけではありません。もっともらしい内容であっても、事実とは異なっている場合があります。また、どのような情報を入力するのかという、プライバシーやセキュリティの問題もあります。そして福祉の仕事で、もう一つ大切にしなければならないことがあります。私たちが日々行っている支援は、目の前の人を見て、言葉を聞き、その人のこれまでの生活や背景を知り、職員同士で話し合いながら、「この人にとって何が大切なのか」を考え続ける仕事です。記録や計画を文章にすることも、その実践と切り離すことはできません。AIを使うことによって何が便利になるのか、その一方で、私たちが考える過程や専門性はどう生かされるべきか、その両面から考える必要があります。

生成AIが急速に普及しているからこそ、まず使うことを前提にするのではなく、「何のために

使うのか」「どのような場面で役立つのか」「どのような場面では使うべきではないのか」を、実際の仕事に即して確かめていく。コスモスにおける生成AIとの向き合い方も、その途上にあると考えています。

「人手不足」と「生産性向上」をどう考えるか

福祉の現場では、職員の確保が大きな課題になっています。国も、介護・障害福祉・保育などの分野でICT（情報通信技術）の活用や「生産性向上」を進めています。現場の不必要な負担を減らし、働きやすい職場をつくること自体は重要です。これまで人の手で行ってきた作業の中にも、ITを活用することで負担を軽減できるものはあります。

しかし、ここで私たちが注意しなければならないのは、「人が足りないから、ITやAIで補えばよい」という考え方になってしまわないことです。福祉の人材不足の背景には、少子高齢化だけではなく、福祉労働を支える制度や報酬、賃金・労働条件など、さまざまな問題があります。必要な人員を確保し、専門性にふさわしい処遇を保障し、職員が安心して働き続けることのできる環境をつくる。そのために必要な社会保障・社会福祉制度の充実と公的責任を求めていくことは、これからも重要です。人員が不足していることを前提として、それを技術によって置き換えていくこと、働く人の負担を減らすために技術を活用することは、同じではありません。必要な職員配置や処遇の改善を求めながら、同時に、現在の仕事のなかにある不合理や不必要な負担については改善していく。この二つを混同しないことが大切だと考えます。テクノロジーの本当の役割は、「機械が得意な仕事」をITに任せることで、人間（職員）が「本来最も大切にすべき仕事」に専念できる時間を取り戻すことにあります。

「IT・AI（機械）が得意な仕事」

- 定型的な記録や報告書の下書き作成・要約
- データの集計、転記作業、書類の様式管理
- 夜間や見守り時のセンサーなどによる安全補助

「職員（人間）にしかできない仕事」

- 子どもたち一人ひとりの「やってみたい」という芽を見落とさず、受け止めること
- 作業所で働く仲間の「自分らしく生きたい」という願いに寄り添い、共に働く喜びを分かち合うこと
- 利用者や家族の不安に耳を傾け、温かく手を差し伸べること
- 地域の人々と協同し、民主的でオープンな施設・保育園づくりを進めること

ITを活用する目的は、「少ない人数でも同じ仕事ができるようにする」ことではありません。機械が得意な事務作業などを効率的に行うことで机に向かう時間を減らし、生み出したゆとりをすべて「子どもや仲間、利用者とよりよく向き合う時間」へと還元していくことであると思います。

現場の声から考える

IT環境を整えていくうえで、システム担当者だけで答えを出すことはできません。実際にシステムを使うのは、それぞれの保育園、障害福祉施設、高齢福祉施設などで働く職員です。

「この入力は何のために必要なのか」「同じことを二度、三度と入力していないか」「この作業をもっと簡単にできないか」「システムを変えたことで、本当に仕事はしやすくなったのか」。こうした現場の声を聞きながら、一つひとつ検討することが必要です。時には、「IT化しない方がよい」という結論になる仕事もあるかもしれません。逆に、これまで当たり前のように人が時間をかけていた仕事を、思い切って見直すことができる場合もあるでしょう。システム担当者の仕事は、単に新しい機器やソフトを導入することではなく、現場と一緒に仕事のあり方を考え、そのために技術をどう役立てられるのかを考えることだと思います。

技術からではなく、私たちの実践から

ITやAIの技術は、これからも変化していくでしょう。数年前には想像できなかったものが、数年後には当たり前になっているかもしれません。だからこそ、新しい技術について学び、その可能性を知ることは必要です。一方で、「新しいから使う」「便利だから使う」「国が進めているから導入する」ということではなく、私たちの実践にとって本当に必要なのかを考えることを出発点にしたいと思います。そして、技術の導入によって生み出した時間をどう使うのかも重要です。事務時間が10分短くなったとして、その10分が別の事務で埋まってしまえば、それだけで福祉の質が高まったとは言えません。その時間を、仲間の話をもう少しゆっくり聞くことに使えるのか。子どもの小さな変化について、職員同士で話し合えるのか。利用者や家族と向き合えるのか。あるいは、職員自身が少し余裕をもって働くことにつながるのか。そうしたところまで含めて、IT活用の意味を考えていく必要があります。コスモスがこれまで大切にしてきたのは、一人ひとりの権利を守り、「必要なすべての人に心の通った福祉」を届けることです。ITもAIも、その実践の外側から私たちの仕事を決めるものではなく、私たちが仕事をよりよくしていくために、必要に応じて選び、使っていく道具の一つです。便利さや効率だけを物差しにせず、現場で働く職員の声、そして何より、私たちが支援する一人ひとりの生活や権利を真ん中に置きながら、これからのIT環境についてみんなで考えていきたいと思います。

コスモス冬の物品販売

一押し商品



「冬の物品販売」が始まります！なかまの個性あふれるイラスト入りエコバッグやファイルをはじめ、動物マグネット、味わい豊かなお菓子、堺ならではの陶芸作品など、バラエティ豊かな逸品が揃いました。作業所の仲間たちの心がこもった一品を、冬の贈り物にぜひどうぞ！



ほくぶ障害者作業所



スモークピンク　ミントブルー　セージグリーン

●おおきにエコバッグ　1枚　1,200円（税込）
カラー：スモークピンク・ミントブルー・セージグリーン
素材：ポリエステル／本体サイズ　約W290×H360（持ち手を含む540）（㎜）持ち手　約W60×H180（㎜）

お問い合わせ…TEL.072-254-5778　FAX.072-259-4459
ほくぶ障害者作業所　担当：兼田（かねだ）　浩美（ひろみ）

お待たせしました！
手話グッズに**「おおきにエコバッグ」**が仲間入りです。
9月23日・24日に開催された「きょうされん全国大会in大阪」でも地元・大阪をアピールできる商品として考え、つくりました。大阪にお住まいの皆様をはじめ、全国の皆様にもぜひ1枚は手にしていただきたいおすすめの一品です。
掲載している手話単語は以下の通りです。
「ユニバーサルスタジオジャパン・おおきに（ありがとう）・たこやき・仁徳天皇陵古墳・大阪・通天閣」

【ほくぶ作業所ハート班　仲間の声】

「『おおきにエコバッグ』を買って、大阪の手話を覚えよう！」

堺東部障害者作業所

「詰め合わせギフト」と「フィナンシェギフト」

一押しポイント

★いろいろな味が楽しめます。
★毎日のおやつはもちろん、プレゼントにも最適です。
★ポケットリーフでは、お客様のご要望に応じた詰め合わせもご用意いたします。お気軽にご相談ください。

●詰め合わせギフト（写真左側）　1,100円（税込）
メレンゲいちご（13g）・プレーンクッキー（4枚）・フィナンシェプレーン（1個）・ガレット（1個）・アーモンドクッキー（5枚）・チョコレートクッキー（2個入り）　全6種（各1袋入り）
●フィナンシェギフト（写真右側）　1,300円（税込）
プレーン（2個）・チョコ（2個）・紅茶（2個）・コーヒー（1個）　全4種（各1袋に1個入り）
●賞味期限　製造日より30日
※一部に、小麦・卵・乳を使用しています。

お問い合わせ…TEL.072-239-5639　FAX.072-290-7121
第3堺東部（さかいとうぶ）障害者作業所　担当：佐藤（さとう）・南川（みなみかわ）



【お客様の声】

- お礼やちょっとしたプレゼントにピッタリ！お友だちも喜んでくれました。
- 箱のラッピングも素敵！
- バリエーションが豊富で、あきることなくいただけました！

おおはま障害者作業所





●動物マグネット
　各200円（税込）
●動物キーホルダー
　各300円（税込）

お問い合わせ…072-243-0750
第2おおはま障害者作業所　縫製班　担当：堀之内（ほりのうち）　薫（かおる）
（または、おおはま障害者作業所　072-241-1900）

第2おおはま障害者作業所にある縫製班では、オリジナル商品をたくさんつくっています。そのうちの看板商品、**『動物マグネット』**は十二支、海の生き物がたくさんいます。そんな『動物マグネット』にこの夏、新しい仲間が増えました！その名もクラゲの「りのちゃん」。頭の模様は水色、ピンク、黄緑色の3色で、どの色が届くかはランダムになっております。

他にも**動物キーホルダー**も販売しており、大変ご好評をいただいております。カバンにひとつ付けるだけでポップで可愛い雰囲気になり、気分も明るくなります。バザー販売のときには多くのお客様の目を引く商品となっています！金具部分はシルバーで、動物たちは背中にリボンをつけておめかししています。
愉快な仲間たちをこの機会にいかがでしょうか？

ふれあいの里かたくら

堺といえば「古墳」！かたくらの看板陶芸商品といえば**「古墳・はにわ」シリーズ!!**
個性的な古墳皿は、ワンプレートとして、また小物入れなどのトレーとしてなどお好きな用途でお使いいただけます。
はにわのゆるい雰囲気に、ほっこりした気持ちに。
バザーなどでもご好評いただいております。
ぜひ、お手元にお迎えください。





●古墳皿　大　1,500円（税込）（全長約25cm 最大幅約16cm）
　　中　1,000円（税込）（全長約20cm 最大幅約13cm）
　　小　500円（税込）（全長約13cm 最大幅約8cm）
●はにわ小皿　500円（税込）（直径約11cm）
　置き物　300円（税込）（大きさ約3cm）

お問い合わせ…TEL.072-291-5679
ふれあいの里かたくら　さくら1班　担当：永月（えいげつ）　かおり

せんぼく障害者作業所

この冬も販売！メンバーみんなで心を込めて描いた**イラスト入りのオリジナルクリアファイル**を販売いたします！仲間それぞれの個性が光る、ほっこり温かいデザインに仕上がりました。書類の整理はもちろん、学校や職場での普段使い、大切な方への小さなおくりものにもぴったりです。使う度に、冬の寒さをやわらげるような優しい笑顔をお届けします。
数量限定での販売となりますので、ぜひこの機会にお買い求めください。皆様のご協力をお願いいたします。



●クリアファイル　2枚500円（税込）　2種類入り

お問い合わせ…TEL.072-296-4520　FAX.072-297-6439
せんぼく障害者作業所　担当：國富（くにとみ）　稔明（としあき）

輝く！私が主人公

「一緒にわらって、一緒に育って」



いづみ保育園の０歳児こりす組です。今年度は、４月入園の６名からだんだんお友だちが増えて、９月には11名になりました。生まれ月によって目に見えて大きな変化のある０歳児クラスです。上のクラスの子どもたちの目にはみんな「かわいい赤ちゃん」ですが、こりす組の中では、様々な関わりが広がっています。自分よりも小さい子が泣いていたら「ん（どうしたの？）」という表情で顔をのぞきこんで心配してくれたり、午睡ですぐには眠れずに保育士の膝に座りながらも横で眠っている子を大人と同じように寝かそうとしてくれたり、自分の服と同じキャラクターを見つけ「ん（いっしょだ！）」と指さし、子ども同士で笑いあったり、とても微笑ましい姿がいっぱいです。だれにでも理解できる言葉を話すことはもう少し先ですが、身振り手振りや表情といった身体全体でのコミュニケーションが花ざかりの子どもたちです。大人と子ども、友だち同士がつながり合ってじっくり豊かな関わりを積み重ねて成長している、そんな姿を文章から少しでも感じていただけると幸いです。

（いづみ保育園　山道（やまじ）　七重（ななえ））

クッキングレシピ

● 中華あんかけそば

これからの寒い季節にぴったり！身体が温まる「中華あんかけそば」を紹介します。

ピーマン・人参・椎茸など色とりどりの野菜が入っており、栄養価だけでなく満足感もある一品です。簡単につくれるので、あんかけの食材を自分でアレンジしながら、ぜひつくってみてくださいね！



▶つくり方

下準備：干し椎茸は水でもどしておく。
もどした干し椎茸などの野菜は食べやすい大きさに切っておく。

① ごま油で豚肉を炒める。
② 豚肉に火が通ってきたら野菜を入れて一緒に炒める。
③ 具が半分ほど浸かるぐらいまで水を入れ、煮詰める。
④ ☆の調味料を入れる。
⑤ 水溶き片栗粉でとろみをつけ、茹でた麺の上にのせたら出来上がり。

■材料（4人分）

中華麺…… 2玉	ピーマン…… 40g
豚こま切れ肉… 120g	ごま油…… 大さじ1
キャベツ…… 200g	☆塩コショウ…… 2g
人参…… 80g	☆薄口醤油 大さじ1.5
干し椎茸…… 4g	☆鶏がらスープの素 …… 大さじ1
玉ねぎ…… 160g	
もやし…… 120g	片栗粉…… 大さじ1

（おおはま障害者作業所　山神（やまがみ）　有沙（ありさ））

グループホーム建設基金のご報告

2026年度　堺西エリア新ホーム開設（定員 10名）に向けて準備をしています。

障害のある人が、安心して住み続けられるように引き続き、ご支援ご協力よろしくお願いします。

2025年１月～2026年8月31日現在

588人　9,676,140円

最終目標金額　１億円

堺の福祉をすすめるコスモス後援会

ご協力ありがとうございます

新たに会員になっていただいた方、更新いただいた方（2026年8月19日～9月10日受付分を掲載しています）

8月のアルミ缶回収の実績報告

ご協力ありがとうございます



●せんぼく	960 kg	355,190 円
●とうぶ	520 kg	129,990 円
●ほくぶ	923 kg	287,878 円
●かたくら	558 kg	158,540 円

＊振込口座は下記の通りです。（郵便局から送金できます）
口座番号　00900－9－106044
口座名義　コスモス後援会
＊この欄は、毎月20日を締め日として掲載させていただいています。

日本生命・あんしん生命・東京海上日動火災・損保ジャパン・
社会福祉法人コスモス提携代理
(株)ルーバーファクトリー
（旧カクタニ総合保険）
〒571-0015
大阪府門真市三ツ島
2-11-36
TEL072・884・3800
FAX072・884・3801

ありがとうコスモス30周年

コスモス創立30周年企画

〈お世話になった方々／コスモス 各事業所からのメッセージ〉

貴法人におかれましては、創立30周年を迎えられ心よりお祝い申し上げます。
これまで一人ひとりに寄り添う支援を続けられ、地域の暮らしを支えてこられたことに敬意を表します。
今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

社会医療法人同仁会　理事長　田端（たばた）　志郎（しろう）様

1970年、新金岡に乳児保育園はなく、共同保育を始めると裁判に訴えられ、地域の協力でいづみ保育園を建設し50年です。障害者施設要望も運動し、法人コスモス設立。いづみも合併、30年目を迎えます。コスモスは、親、なかま、子ども、そして職員も育ち合う法人です。

いづみ保育園元園長　瀬藤（せとう）　みや乃（の）様

創立30周年という素晴らしい日を皆様とともに迎えられたことを、心から嬉しく思います。ヘルパーステーションとして、今後も皆様の生活を支えつつこれからも地域とともに歩んでいきたいと思います。

ヘルパーステーションせんぼく　職員一同

コスモス設立後に誕生した「ふれあいの里かたくら」は来年30歳。コスモス設立同様、多くの方々の運動・思い・経過があり、現在に至ります。
これまでの歩みを忘れることなく、「あってよかった」施設となれるよう、さらなる発展を目指します。これからもよろしくお願いいたします。

ふれあいの里かたくら　職員一同

コスモス りようしゃさん

紙上作品展

『でん・でんでぶどうがり？』







今年も猛暑の中、長い夏休みが終わりました。毎日の水遊び、博物館見学など、楽しい夏を過ごしたでん･でんの子どもたち。９月になって２学期が始まり、少しずつ秋の気配がしてきます。さっそく、壁一面にぶどうを飾ろうと、ぶどう制作に取り組みました。「ぶどうって紫かな？」「緑はシャインマスカットやな」。色画用紙で輪つなぎをして、ぶどうの実をつくっていきます。葉っぱは「緑じゃなくてもいいよね」と色とりどりの折り紙を使ってつくります。ぶどうの形につなげて完成！「持って帰ってもいい？」「ぶどうがりや～」「写真とってからね！」。みんなでつくったぶどうを並べてパシャリ☆

でん・でんに秋がやってきました。

（コスモス放課後等デイサービス　でん・でん　松浦（まつうら）　美香（みか））











